

# SDGs 推進に向けた教育実践開発の取り組み

鶴田輝樹

本研究では、SDGs の推進に向け、様々な NIE (Newspaper in Education) 実践の開発に取り組んだ。本実践を通し、生徒にグローバルな動向と自国の動向を相互的に捉え、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度の育成を目指した。なお本研究では、社会科を中心とした教科での実践開発と、ユネスコ委員・ユネスコ班を中心とした生徒会・部活動での実践開発に取り組んだ。

## 1. はじめに

本校は、SDGs の推進及び先導的な実験的カリキュラムの導入について検討し、教育研究大会や校内研究授業等を通して、各教科ならびに探究学習等の通教科的な教育研究実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を目標としている。また、ASPnet<sup>1)</sup> に設立当時から加盟しており、校務分掌にユネスコ教育推進部、生徒会にユネスコ委員会、部活動にユネスコ班 (1970 年設立) を設置し、長年にわたって継続的にユネスコ活動に取り組んでいる。

日本新聞協会 NIE アドバイザーである実践者は、ユネスコ教育推進部長・ユネスコ班顧問として、日本新聞協会や広島県 NIE 推進協議会の協力を仰ぎながら、2020 年度より新聞を活用した SDGs 推進に向けた教育実践開発に取り組んでいる。

## 2. 問題の所在

安田女子大学の朝倉淳氏は、「現代社会・未来社会には、すでに顕在化している様々な課題があり、今後も新たな課題の発生が考えられる。このような課題に取り組みながら生きていかなければならない子どもたちにとって、SDGs は新たな知識や思考の枠組みを提供してくれる<sup>2)</sup>。」と示されている。

また、福山大学の小原友行氏は、「児童生徒が社会人となり、一人前の大人として社会を支えるようになる近未来、すなわち、2030 年前後の社会の変化に対応する学習内容の開発こそ、新学習指導要領改訂のポイントである<sup>3)</sup>。」と提言されている。

両氏の指摘にあるように、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である SDGs を推進することは、生徒の公民的資質・能力の育成を目指す学校教育において喫緊の課題である。

## 3. 研究の目的と方法

実践者は、新たな教育実践を開発することで、生徒にグローバルな動向と自国の動向を相互的に捉え、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度の育成を目指し、そのための学習材として積極的に新聞を活用した。本研究のテーマでもある、新聞の持つ特性を生かしながら、教育の様々な場面で新聞を活用していく取り組みのことを NIE と呼ぶが、新聞を活用するメリットとして以下のことがあげられる。

- ・他のメディアと比較して、情報が総合的で、信頼性が高い。
- ・生徒にとって身近な情報源であり、学校卒業後も持続的な学習材となり得る。
- ・地域的な出来事から世界的な出来事まで、多様な社会的事象を一覧でき、学習の動機づけに適している。
- ・紙媒体のため、保存しやすく、切り貼りやまわし読み等、教育現場において様々な授業展開が可能である。

実践者は、持続可能な世界を目指す SDGs と、学習材としての新聞の親和性が極めて高いと考え、授業の中でどのように新聞を活用することが SDGs 推進に向けた実践開発及び学習指導の改善につながるのか考察した。なお、2020 年度から 3 年間にわたり、継続的に以下の 4 つの実践に取り組んだ。

- SDGs の記事を中心とした新聞の構成理解
- SDGs をテーマとしたオリジナル新聞作り
- SDGs のフレームワークを使った新聞記事分析
- SDGs の付箋を活用した新聞記事のまわし読み

また、2021 年度と 2022 年度には、それぞれ次の 2 つの実践にも取り組んだ (各年度の主な学習活動・

実施時期・ねらいに関しては本稿の末尾に資料1として添付した。

- SDGsの視点からの「歴史総合」授業
- 新聞を活用したユネスコ班・ユネスコ委員会活動

## 4. 研究の内容

### (1) SDGsの記事を中心とした新聞の構成理解

中学生を中心に、2020年度から継続して、もともと新聞を読む習慣の無い生徒たちに新聞に興味・関心を持たせるため、日常的に生徒が通る校舎1階の掲示板に、中国新聞朝刊一面を毎日掲示・更新した。さらに、年度によって若干の変更はあるものの、5～6月・10～11月の期間中、複数の全国紙や地方紙を生徒が手に取りやすいように設置し、NIE実践指定校としての環境づくりを行った。また、授業時に、その日のトップニュースに触れるように心がけ、生徒が自発的に新聞に目を留めるよう促した。



中学校生徒掲示板の様子

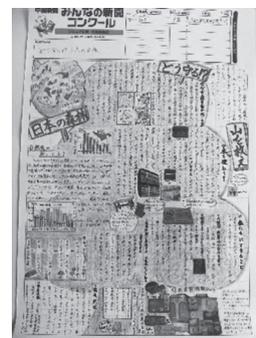
新聞の構成自体を分かりやすく理解するために、日本新聞協会が主催する「いっしょに読もう！新聞コンクール」への作品応募に毎年取り組んだ。コンクール作品の制作を通して、新聞の紙面構成や人に伝わる文章の特徴を理解するとともに、家族や友達等周りの人と一緒に記事を読むことで、自分以外の様々な意見にふれ、さらに考えをまとめることで、思考力・判断力・表現力を育成することができた。また、個人の感想・意見を表明するだけでなく、周囲の人の意見を聞くことで、多面的に物事を考える良い機会にもなった。



「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募作品の一部

### (2) SDGsをテーマとしたオリジナル新聞作り

夏休みの課題として、SDGsをテーマに、中学生は主にオリジナル新聞を、高校1年生は、新聞切り抜き作品・新聞感想文を制作した。この活動の事前学習として、中学社会科や高1歴史総合の授業の中で新聞紙面の構成や、記事の書き方、見出しの付け方等を説明した。読み手に分かりやすい新聞紙面を作るという活動を通して、生徒に思考力・表現力を育むことができた。完成した作品は、中国新聞が主催する「みんなの新聞コンクール」へ応募した。



中学生・高校年生が制作したオリジナル新聞 / 新聞切り抜き作品の一部

### (3) SDGsのフレームワークを使った新聞記事分析

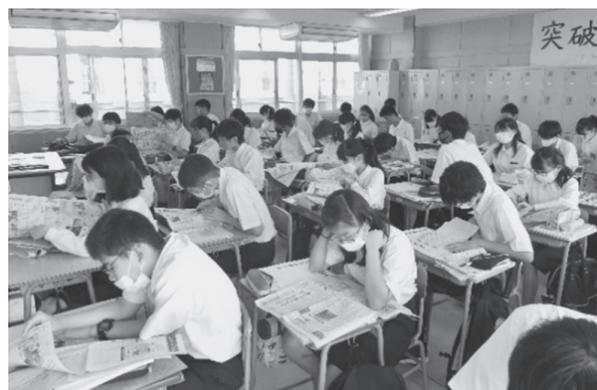
まだ新聞を読むことに慣れていない、中学1・2年生を対象に、ワークシートを使用しながら、新聞記事の分析を行った。1年目は新聞社から提供されたものをダウンロードして利用していたが、生徒の意見を参考にしながら、2年目からは授業者オリジナルのワークシートを使用した。学習指導案については表1に示した。この授業については、社会科の時間だけでなく、道徳の時間（「国際理解・国際貢献」）でも実施した。また、確保できる授業時間に応じて、個人活動だけではなく、授業のまとめとして意見交換等のグループワークを行うことで、多様な考え方を共有させることもできた。

表1 学習指導案①

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> ○SDGs自体の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に掲示されたアイコンを確認しながら、2030年までに達成すべき世界共通の17の目標を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに関連する具体的なデータ等を示しながら、なるべく生徒がイメージしやすいように工夫する。</li> <li>・特に日本におけるSDGsの達成度について詳しく触れる。</li> </ul>
<展開> ○SDGsマッピング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布された新聞記事から、SDGsの達成に向けて、個人的に重要であると考えた記事を見つけ出し、ワークシートに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員に新聞がいきわたるように、日本新聞協会から提供していただいたものを活用する。</li> <li>・分析対象とする記事は1面からテレビ欄までどれでもよいことを伝える。</li> </ul>
<終結> ○自分なりのSDGs達成に向けた意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ新聞記事が、17のゴールの中のどれと関連づくのか考察する。</li> <li>・選んだ記事を参考に、自分なりのSDGs達成に向けた解決策を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに示したアイコンと生徒自身が選んだ新聞記事を線で結ばせる。</li> <li>・プリントの空いたスペースに自分で調べたこと等をまとめさせる。</li> </ul>

授業者の指導内容としては、先ず導入で、SDGsについて、スライド資料を示しながら一つ一つのゴールについて、事例を交え詳しく説明した。

その後、展開では、日本新聞協会から提供していただいた新聞（比較しやすいようなるべく同じ日付のもの）から、SDGs達成に向け個人的に重要だと考える記事を見つけ出し、オリジナルの授業用ワークシートに貼るよう指示した。



SDGsの枠組みを意識して新聞を読む生徒たち

終結では、それぞれ自分たちが選んだ新聞記事が17のゴールの中のどれと関連づくのかワークシート上のアイコンと線で結び、自分なりの解決策を記述・発表させた。最後に授業の振り返りを書かせるとともに、周りの人と意見交換をさせた。



生徒が作成した授業用ワークシートの一部

生徒の提出物であるワークシートを見てみると、環境相と経団連幹部との意見交換の記事から、「脱炭素に向けて一人ひとりのちょっとした工夫や心がけで、直接的に二酸化炭素の排出を減らすことができる」という意見や、NTTとNEC提携の記事から、「大容量が通信可能になることは、日本の大きな経済成長が期待できるが、途上国との技術格差が広がっていくため、どんどん先へと技術のステージを進めていくよりも、全世界の人を同じステージに載せることを目標にやっていってほしい」という意見等があった。

表2 授業での成果物をまとめたもの① (一部抜粋)

新聞記事	SDGs アイコン	記事内容に対する評価・自分の考え
上がるか？ レジ袋 「辞退率」	2, 13, 14, 15	条件によっては有料化にならないレジ袋があることを知り、最終的には全てを有料化にしなければならないと思った。レジ袋を作るメーカーもマイバッグの生産にシフトするなど経済的な影響を小さくする方法があるのではないか。
「5G市場」 出遅れ 危機感	8, 9	通信速度が100倍になると、大容量の通信が可能になり、人工衛星との通信によって自動運転が可能になったり、電波によってそこにはいない赤ちゃんの手ざわりを祖父母などが感じられるようになったりして、日本における大きな経済成長を期待できるのではないか。
「脱炭素」 実現へ	7, 13, 14, 15	日本の脱炭素に対する取り組みは他の国と比べて遅れている。使わない電気を消し、エアコンの設定温度に気を付け、シャワーの時間を減らす等、ちょっとした工夫や心がけて直接的に二酸化炭素の排出を減らすことができるのではないか。

#### (4) SDGsの付箋を活用した新聞記事のまわし読み

SDGsの付箋を活用した実践に関する学習過程は表3に示した<sup>4)</sup>。これまでの実践を踏まえ、一つの記事に限らず、時間の許す限り、できるだけ多くの記事に付箋を貼るよう指示し、まわし読みの回数を増やした。また、グループ内で完結させずに、クラスで共有したいと思った記事をまとめて、壁新聞を制作し、発表させた。

表3 学習指導案②

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> ・SDGsに関する記事の考察	・これまでの復習としてSDGsの内容を確認する。 ・配布された新聞記事から、SDGsの達成に向けて、個人的に重要であると考えられる記事を探す。	・導入時には改めてSDGsの内容について具体例を示し説明する。 ・生徒全員に新聞がいきわたるように、日本新聞協会から提供していただいたものを活用する。
<展開> ○記事のまわし読み	・配布されたSDGsの17のゴールが書かれた付箋を自分が気になった新聞記事に貼り、コメントを書く。 ・グループ内でまわし読みをし、まわってきた記事に自分なりの考えを書いた付箋を貼る。	・付箋に書くコメントについては、記事の感想やSDGsとの関係、解決策などを指示する。 ・一人当たり5分程度の時間を取り、他人の意見に左右されないよう促す。
<終結> ○記事のコメントについて比較検討	・グループの他の生徒が、自分の記事にどのようにコメントしているのか分析し、発表する。 ・同じ記事であるにもかかわらず、様々な見方・考え方がることを理解する。	・違う種類の付箋が多く貼られた記事について発表してもらい、クラス全体で共有し考えさせる。



新聞記事にSDGsの付箋を貼る生徒たち

導入では、まずグループ毎に配布された新聞記事の中からSDGsに関連していて、個人的に気になる記事を選ばせた。そして、SDGsの17のゴールが書かれた付箋を新聞記事に直接貼り、その記事に対する自分なりのコメントを書くよう指示した。付箋を貼るという作業は、気軽に取り組むことができ、生徒にも好評であった。

展開では、4~5人のグループの中で記事のまわし読みをさせた。教師のはたらきかけとして、できるだけ他の人の意見に左右されず、記事を俯瞰して見るように声かけを行った。自分のもとへ戻ってきた新聞記事はできるだけ詳しく考察するよう促した。

終結では、グループの中で特に色々な意見が出たもの、他のグループに紹介したいものを選ばせ、選んだ新聞記事を台紙に貼り、タイトルや感想を付け加えて、発表用の壁新聞を制作するよう指示した。最後にグループ毎に発表させた。あるグループは、SNSにおける誹謗中傷の問題や、ペットボトルの再生利用についての記事をまとめ、「日常のSDGs」と題して壁新聞を制作し、グループ内で出た意見を紹介していた。



完成したSDGs壁新聞の発表の様子

生徒の成果物を見てみると、温暖化の危機に関する1つの記事について、「気候変動の具体的な対策を考えるべき」という意見がある一方、「まずは生態系に及ぼす影響について考えよう」とする意見・「人体への具体的影響を調査するべき」という意見等多様な意見を見ることができた。

生徒たちは、お互いの思考を共有する中で、同じ新聞記事でも、多様な見方をすることができ、また、SDGsについてもいろいろな観点からその達成に向けて構想を立てることができるようになった。

表4 授業での成果物をまとめたもの② (一部抜粋)

新聞記事	SDGs アイコン	コメント
国会での「気候非常事態宣言」の背景	A君:3	温暖化による環境被害や熱中症を防ぐことにもつながるなど思いました。具体策がもう少しあると良い?
	Bさん:13	あくまで気候変動に具体的な対策をとる、スタートラインをつけたという印象。
	C君:14	地球温暖化によって氷山が崩れたりなどして生物の住処が失われているので、人類全員で取り組むべきである。
	Dさん:15	陸の生態系を守るために、地球温暖化を引き起こす要因を減らすべき。

### (5) SDGsの視点からの「歴史総合」授業

2021年度の新たな取り組みとして、2022年度から高等学校で実施される「歴史総合」にSDGsとNIE学習の要素を取り入れる実践を試みた。

授業の概要としては、まず、地方紙・全国紙の新聞記事からSDGsに関連するものを提示し、生徒に現代的な課題である貧困問題と難民・移民問題についてそれぞれ具体的に認識させた。そして、その諸課題の形成に深く関わっている帝国主義時代を、ジグソー法を取り入れながら多面的・多角的に考察させた。具体的な学習指導案は表5に示した。

授業の最後にまとめとして、現代の諸課題の歴史的経緯について議論した上で、取り上げた新聞記事の課題解決に向けてどのような取り組みを行うべきか発表させ、よりよい社会の実現について具体的に構想させた。この授業については、本校における校内研究授業として実践し、教員間で研究協議を行った。

表5 「歴史総合」学習指導案

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> ○SDGs関連記事による現代的諸課題の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年までにすべての国が取り組むべき17の目標であるSDGsの概要についてそれぞれ理解する。</li> <li>・SDGsに関連する新聞記事を読み、現代的な諸課題には貧困(経済格差)や難民・移民に関する問題があることを把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの中でも特に貧困問題、難民・移民問題に関する新聞記事を、授業資料として取り上げる。</li> <li>・現代社会の諸課題の形成に関わる歴史的事象として、19世紀後半から20世紀前半にかけての帝国主義時代に着目させる。</li> </ul>
<展開> ○帝国主義時代の多面的・多角的考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー法を用いて、「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」の立場から帝国主義時代を、ワークシートを活用しながら多面的・多角的に考察する。</li> <li>・エキスパート班で考察した、帝国主義時代における各地域の動きを、各ジグソー班で意見交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人1組のジグソー班を作り、「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」のエキスパート班に分ける。</li> <li>・帝国主義時代の各地域の動きを、「政治」「経済」「外交」「科学技術」の視点から考察させる。</li> <li>・エキスパート活動では、推移、比較、相互の関連に着目させ、歴史的事象が現在とどのようにつながっているのか(プラスの影響・マイナスの影響)を考えさせる。</li> </ul>
<終結> ○「帝国主義」を通じたSDGs実現への構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に調べた帝国主義時代の各地域の動きをジグソー班で共有しながら、ワークシートを完成させる。</li> <li>・現代的な諸課題の背景について議論したうえで、取り上げた新聞記事の課題解決に向けてどのような取り組みを行うべきか班ごとにまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを作成するうえで、各地域の類似・差異・因果関係などについて意識させるとともに、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉えさせる。</li> <li>・今回の学習を通して、別の諸課題(国際紛争、人種差別、ジェンダー不平等、環境問題等)についても、その歴史的背景から解決策を構想するよう促す。</li> </ul>



校内研究授業の様子

## (6) 新聞を活用したユネスコ班・ユネスコ委員会活動

本校のユネスコ班・ユネスコ委員は、毎年の継続的な活動として、「平和記念公園内にある様々な石碑を巡り、平和に関する意識を高める活動」、「8月6日の慰霊追悼の集い（校内実施）のための折り鶴作成」、「8月15日の広島ユネスコ協会主催行事“平和の鐘を鳴らそう”への参加及び平和のメッセージ（日本語・英語）のスピーチ」、「文化祭でのフェアトレード商品の紹介」、「使用済み切手・カード、書き損じはがきを回収・換金し、発展途上国の教育や医療に役立ててもらおう活動」等を実施している。

2022年度は、これまでの活動を継続しながら、新たに新聞を活用したユネスコ班・ユネスコ委員会に関わる活動として、「Google Classroom上に教員がSDGs関連の記事をアップし、班内で共有する活動（新聞で知る）」・「ユネスコ班としての活動を新聞の形でまとめる活動（新聞を作る）」・「自分たちの活動内容を新聞で外部に紹介する活動（新聞で伝える）」の3つの活動に取り組んだ<sup>5)</sup>。

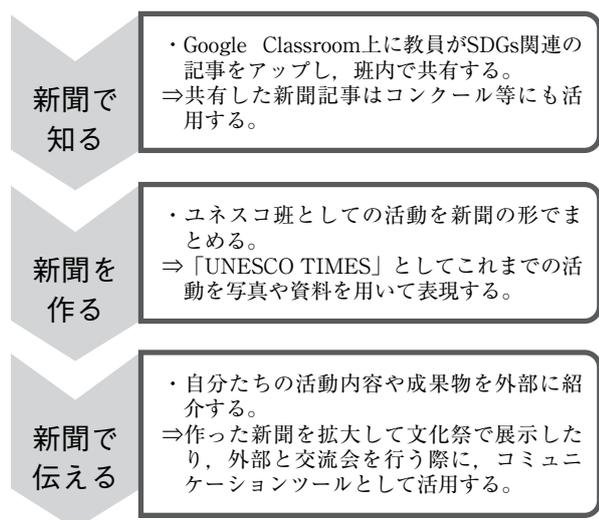


図1 ユネスコ班・ユネスコ委員会活動の概要

「Google Classroom上に教員がSDGs関連の記事内容をアップし、班内で共有する活動」については、広島サミットや平和記念公園でのイベント等生徒にとって身近な話題から、海洋ゴミ問題や核兵器の廃絶等世界的な問題まで、生徒に考えてほしい問題を厳選して、その新聞記事内容をオンライン上に示した。特にウクライナに関する記事については、様々な視点や立場から書かれているものを意識して選ぶように心がけた。

表6 Google Classroom への掲載記事の一部

発行日	ページ	主見出し	袖見出し
5月5日(木)	2面	核なき世界実現へ連携	首相、ローマ教皇と会談
5月24日(火)	1面	広島サミット決定	来年、初の被爆地開催
6月6日(月)	25面	深海プラスチックごみ堆積	海洋機構確認 生態や汚染調査
6月21日(火)	20面	殺虫剤使わないコメ栽培広がる	絶滅危惧種のチョウ「ヒョウモンモドキ」保全へ
7月26日(火)	22面	ウクライナ平和の調べ	府中で演奏会 非難の2人に支援金
8月1日(月)	20面	ヒロシマの願い灯に	平和記念公園で集い
8月30日(火)	9面	異業種タッグで環境配慮型商品	廃棄カキ殻で洗剤開発
9月20日(火)	8面	昆虫食に熱視線	コオロギが食料危機救う？
10月16日(日)	24面	海洋ゴミ問題街で考えよう	再生品販売やワークショップ
10月26日(水)	26面	観光&海岸清掃人気	福山の走島でエシカルツーリズム

(掲載記事を参考にコンクールに取り組んだ生徒も見られた)

この活動を通して、生徒たちは、現在地域や世界で起こっている様々な出来事について、新聞を情報源として知識を得、その上で、自分が何をすべきかについて考えることができた。特にウクライナの問題については、自発的に校内で募金活動に取り組んだり、広島で開催された、ウクライナからの避難学生が主催する「ウクライナ平和サミット」へも参加した。



ウクライナ募金活動の様子

「ユネスコ班としての活動を新聞の形でまとめる活動」については、ウクライナへの募金活動・「ウクライナ平和サミット」の様子・世界のフェアトレードの現状・平和記念公園の碑巡り・本校のユネスコスクールとしての活動やあゆみ等について、『UNESCO TIMES』という新聞の形でまとめた。



生徒が作成した『UNESCO TIMES』の一部

「自分たちの活動内容や成果物を外部に紹介する活動」については、『UNESCO TIMES』を、壁新聞に拡大して、文化祭で展示し、参加者に自分たちの活動や世界の諸問題について知ってもらうこともできた。



文化祭で『UNESCO TIMES』（壁新聞版）とフェアトレード商品を紹介した

さらに、『UNESCO TIMES』をコミュニケーションツールにして、様々な学校（広島国際学院高校や修道高校等）とオンラインや対面での交流・意見交換を行った。



他校とのオンライン交流会の様子

## 5. 成果と課題

近年のコロナ禍で、学習活動に多くの制約があったにもかかわらず、中1～高1を中心に、新聞を活用したSDGs推進に向けた教育実践開発の取り組みについて、次のような教育的成果が得られた。

- SDGsの枠組を通して新聞記事を読み、感想を共有することで、世界的課題を多面的・多角的に考えることができた。
- 新聞のまわし読みと壁新聞の制作を通して、お互いの思考を共有し、対話を通して物事の高多様に気付くことができた。
- 「歴史総合」の授業にSDGsに関連する新聞記事を活用したことで、歴史的事象を自分ごととして考察することができた。
- ユネスコ班員について、自発的に平和に関するイベントや、SDGsに関する学習会等に参加するようになった。

また、毎年生徒の学習へのモチベーションを高めるために、新聞コンクールへの応募に力を入れてきたが、2020年度から毎年受賞者の数も増え、2022年度は、中国新聞「みんなの新聞コンクール」において最優秀賞4名及び学校賞、「いっしょに読もう！新聞コンクール」において全国最優秀賞及び優秀学校賞（全国5校）をはじめ、次に示すような結果も得ることができた。

表7 2020年度 新聞コンクールの結果

コンクール名	部門	成果
第20回中国新聞「みんなの新聞コンクール」	ジュニア新聞	中国新聞販売所連合会賞…1名 ／福屋賞…1名／RCC賞…1名 ／入選…5名／佳作…12名
	新聞切り抜き作品	最優秀賞…1名／広島県知事賞…1名 ／入選…1名／佳作…3名
	新聞感想文	入選…2名／佳作…3名
第11回「いっしょに読もう！新聞コンクール」		優秀賞…1名（中学生部門） 学校奨励賞

表8 2021年度 新聞コンクールの結果

コンクール名	部門	成果
第21回中国新聞「みんなの新聞コンクール」	ジュニア新聞	最優秀賞…1名／福屋賞…1名／ RCC賞…1名／入選…1名／佳作…11名
	新聞切り抜き作品	広島県教育委員会賞…1名／中国新聞販売所連合会賞…1名
	新聞感想文	最優秀賞…1名／広島県知事賞…1名 ／広島県教育委員会賞…1名 ／入選…3名／佳作…9名
第12回「いっしょに読もう！新聞コンクール」		優秀賞…1名（中学生部門）／ 奨励賞…1名（中学生部門） 学校奨励賞

表9 2022年度 新聞コンクールの結果

コンクール名	部門	成果
第22回中国新聞「みんなの新聞コンクール」	ジュニア新聞	最優秀賞…1名／広島県教育委員会賞…1名／ RCC賞…1名／入選…4名／佳作…17名
	新聞切り抜き作品（中学生）	入選…2名／佳作…3名
	新聞切り抜き作品（高校生）	最優秀賞…1名／広島県教育委員会賞…1名 ／入選…2名／佳作…4名
	新聞感想文（中学生）	最優秀賞…1名
	新聞感想文（高校生）	最優秀賞…1名／広島県教育委員会賞…1名 ／入選…4名／佳作…9名
	学校賞	広島大学附属高等学校
第13回「いっしょに読もう！新聞コンクール」		最優秀賞…1名（高校生部門） ／奨励賞…2名（中学生部門） 優秀学校賞

授業後の生徒へのフィードバックアンケートには「新聞を読む習慣ができた」「SDGsについて認識が深まった」という意見が多かった一方で、以下のような意見も見られた。

- ・もっと普段の授業からSDGsについて触れてほしい。
- ・（自分の反省として）毎回同じような目標に目がいってしまった。すべての目標を必然的に考えられるような取り組みがあっても良いのでは。
- ・デジタルデータ等を活用すれば、かさばらずに取り組みがしやすいのでは。
- ・もっとGIGAパソコン等を使って、より多くの人の意見を聞きたかった。

これまでの実践に加えて、ICTを活用する等更なる改善を加えていくとともに、新聞の学習材としての可能性を多面的に考察していきたい。また、できるだけ簡単に再現可能なNIE実践を開発・発信し、多くの学校にNIEを広げていきたい。さらに、ユネスコスクールとして、SDGs推進に向けた教育実践の開発についても模索していきたいと考えている。

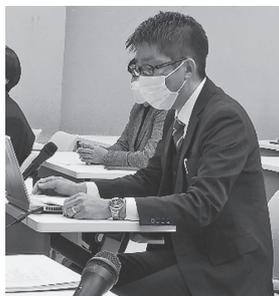
【註】

- 1) ASPnet (Associated Schools Network) は、1953年に発足した、ユネスコの理念を学校現場で実践するための国際的なネットワークである。加盟校同士が活発に交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展が目指されている。
- 2) 広島県NIE推進協議会、「NIEの今日的意義と方法」, <https://nie-hiroshima.com/wp-content/uploads/2020/10/ae643a6e0dbae9ed25c50138a26fbbbd-1.pdf>（最終閲覧日：2020年12月25日）より引用。
- 3) 小原友行、「新学習指導要領改定のポイントとNIE」, <https://nie.jp/study/>（最終閲覧日：2021年12月28日）より引用。
- 4) 実践者は、第99回広島県NIE学習会においてワークショップ「SDGsまわしよみ新聞」として本実践を紹介させていただいた。



第99回広島県NIE学習会の様子

5) 実践者は、第2回広島SDGsコンソーシアム研修会において「新聞を活用したSDGs推進の取り組み」として本実践をオンライン発表させていただいた（第8回広島県ユネスコESD×SDGs大賞受賞）。



第2回広島SDGsコンソーシアム研修会の様子

**【参考・引用文献】**

- ・大澤広晃, 『帝国主義を歴史する』, 清水書院, 2019年.
- ・蟹江憲史監修, 『未来を変える目標—SDGs アイデアブック』, 紀伊國屋書店, 2018年.
- ・小原友行 / 高木まさき / 平石隆敏, 『はじめて学ぶ学校教育と新聞活用—考え方から実践方法までの基礎知識』, ミネルヴァ書房, 2013年.
- ・全国社会科教育学会編, 『新社会科授業づくりハンドブック 中学校編』, 明治図書, 2015年.
- ・原田智仁, 『「歴史総合」の授業を創る』, 明治図書, 2019年.
- ・陸奥賢, 『まわしよみ新聞をつくろう!』, 創元社, 2018年.
- ・『NIEガイドブック 高等学校編』, 日本新聞協会, 2022年.

## Efforts to develop educational practices to promote SDGs

Teruki TURUTA

**Abstract :**

In this study, we worked on the development of various NIE (Newspaper in Education) practices to promote the SDGs. Through this practice, we aimed to foster the attitude of trying to solve global and regional issues by understanding global and national trends. In addition, during this study, we worked on practical development in subjects centered on social studies, and practiced development in student councils and club activities centered on the UNESCO committee and UNESCO group.

【資料1】

表 10 2020 年度 NIE 実践の概要

学年	科目名	主な学習活動	実施時期	ねらい
中 2	社会 (歴史)	新聞機能学習：新聞の構成理解 ⇒第 11 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	4～6 月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：学習新聞の作成 ⇒第 20 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
	道徳	新聞活用学習：複数紙の記事を学習材として活用	11 月	・新聞記事を SDGs の枠組みを通して読むことで、様々な社会的事象に対して、多面的・多角的なものの見方や考え方ができることを目指す。 ・SDGs 達成に向けて何ができるのかを考えることで、国際理解や国際貢献について深く考え、集団や社会との関わりについて理解する。
	社会 (歴史)		12 月	・新聞記事を SDGs の枠組みを通してコメントを付けながら読み、その記事をまわし読みすることで、自分の考え方を再評価し、世界の動向や社会の課題について多様な考え方ができることを理解する。
高 1	世界史 A	新聞制作学習：切り抜き新聞・新聞感想文の作成 ⇒第 20 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」新聞切り抜き作品・新聞感想文の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。

表 11 2021 年度 NIE 実践の概要

学年	科目名	主な学習活動	実施時期	ねらい
中2	社会(歴史)	新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 12 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	4～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs をテーマとしたオリジナル新聞作り ⇒第 21 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
		新聞活用学習：SDGs のフレームワークを使った新聞記事分析	11月	・新聞記事を SDGs の枠組みを通して読むことで、様々な社会的事象に対して、多面的・多角的なものの見方や考え方ができることを目指す。 ・学習成果をまとめることで、SDGs 達成に向けて何ができるのかなど、国際理解や国際貢献について深く考え、集団や社会との関わりについて理解する。
		新聞活用学習：SDGs の付箋を活用した新聞記事のまわし読み	12月	・新聞記事を SDGs の枠組みを通してコメントを付けながら読み、その記事をまわし読みすることで、自分の考え方を再評価し、世界の動向や社会の課題について多様な考え方ができることを理解する。 ・選んだ新聞記事を使って壁新聞を制作し、クラスで発表することで、表現力を養うとともに、自らの学習をまとめて振り返る。
中3	社会(歴史)	新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 12 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	4～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs をテーマとしたオリジナル新聞作り ⇒第 21 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
高1	世界史A	新聞制作学習：SDGs をテーマとした切り抜き新聞・新聞感想文の作成 ⇒第 21 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」新聞切り抜き作品・新聞感想文の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
		新聞活用学習：SDGs の視点からの「歴史総合」授業	11月	・SDGs に関する新聞記事を導入教材として、帝国主義時代の各国・地域の特徴を理解する。 ・帝国主義時代と現在の社会問題とのつながりについて考察することで、思考力や判断力を身につける。

表 12 2022 年度 NIE 実践の概要

学年	科目名	主な学習活動	実施時期	ねらい
中 1	社会 (歴史・地理)	新聞活用学習：SDGs のフレームワークを使った新聞記事分析	4月	・新聞記事をSDGsの枠組みを通して読むことで、様々な社会的事象に対して、多面的・多角的なものの方や考え方ができることを目指す。 ・学習成果をまとめることで、SDGs達成に向けて何ができるのかなど、国際理解や国際貢献について深く考え、集団や社会との関わりについて理解する。
		新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 13 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	5～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs をテーマとしたオリジナル新聞作り ⇒第 22 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
中 2	社会 (歴史)	新聞活用学習：SDGs のフレームワークを使った新聞記事分析	4月	・新聞記事をSDGsの枠組みを通して読むことで、様々な社会的事象に対して、多面的・多角的なものの方や考え方ができることを目指す。 ・学習成果をまとめることで、SDGs達成に向けて何ができるのかなど、国際理解や国際貢献について深く考え、集団や社会との関わりについて理解する。
		新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 13 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	5～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs をテーマとしたオリジナル新聞作り ⇒第 22 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
		新聞活用学習：SDGs の付箋を活用した新聞記事のまわし読み	11月	・新聞記事をSDGsの枠組みを通してコメントを付けながら読み、その記事をまわし読みすることで、自分の考え方を再評価し、世界の動向や社会の課題について多様な考え方があることを理解する。 ・選んだ新聞記事を使って壁新聞を制作し、クラスで発表することで、表現力を養うとともに、自らの学習をまとめて振り返る。
中 3	社会 (歴史・公民)	新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 13 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	5～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs (平和) をテーマとしたオリジナル新聞作り ⇒第 22 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞・新聞切り抜き作品の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
高 1	歴史総合	新聞機能学習：環境づくりと新聞の構成理解 (SDGs に関する記事を中心に) ⇒第 13 回「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募	5～6月	・家族や友だちといっしょに記事を読むことで、新聞の構成自体を理解するとともに、感想・意見などを書いて記事とともにコンクールに応募することで、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分一人の感想・意見の表明だけではなく、周囲の人の意見も聞いて、多面的に物事を考えさせることをねらいとする。
		新聞制作学習：SDGs をテーマとした切り抜き新聞・新聞感想文の作成 ⇒第 22 回中国新聞「みんなの新聞コンクール」新聞切り抜き作品・新聞感想文の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
ユネスコ委員・ユネスコ班		Google Classroom上に教員がSDGs関連の記事をアップし、班内で共有する活動	通年	・現在地域や世界で起こっていることについて、新聞を情報源として、まず知識を得た上で、自分が何をすべきかについて考える。
		ユネスコ班としての活動を新聞の形でまとめる活動	通年 (文化祭)	・ウクライナへの募金活動・「ウクライナ平和サミット」への参加・平和記念公園の碑巡り・世界のフェアトレード・本校のユネスコスクールとしての活動等について、新聞の形でまとめることで自分たちの活動を振り返るとともに、文化祭において多くの人に世界の諸問題について知ってもらう。
		自分たちの活動内容や成果物を外部に紹介する活動	通年	・ユネスコ班の活動を新聞にまとめ、それをコミュニケーションツールにして、様々な学校と交流を深めることを目指す。